令和７年度 農作物病害虫	防除対策情報　第１号	令和７年４月23日 秋田県病害虫防除所

育苗中の苗でトマトキバガの食害を確認

～食害を確認したら、直ちに薬剤防除を行ってください～

１．現在までの発生状況と今後の発生予想

2024年にトマトキバガ（図－１）が発生したハウス内（無加温ビニル被覆）において、冬期～春期（１～４月）に設置したフェロモントラップに継続的に誘殺が確認された。このうち一部のハウス周辺にある育苗ハウスでは、本種の成虫と卵及び幼虫による食害も確認された（図－２）。本虫の発生は県内広域で確認されており、今後、本虫の幼虫による食害が懸念されるため、以下の対策を行う。

２．防除対策

１）育苗期～定植期

（１）幼虫による食害痕（図－３）が無いかよく観察する。特に生長点付近を食害された場合、生長点が枯死することもあるため注意する（図－４）。

（２）食害が確認された場合は、直ちに薬剤の茎葉散布を行い（表－１）、定植時には粒剤の株元散布又はかん注剤により防除を行う（表－２）。

２）定植後

（１）栽培ハウスの開口部全てに防虫ネット（目合い0.8mm以下）を隙間が無いように設置し、成虫の侵入を防ぐ。

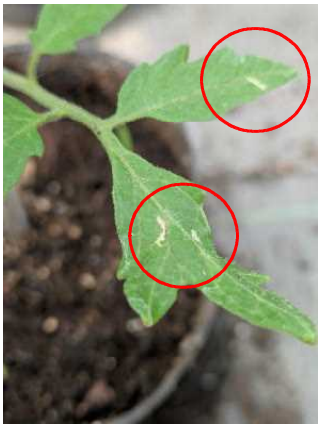
（２）定植時は、苗に食害が無いかをよく確認し、本圃に持ち込まないようにする。

（３）幼虫による食害が見られたら直ちに薬剤防除を行う（表－１）。

（４）海外ではジアミド系剤（ＲＡＣコード：28）などの殺虫剤に対する抵抗性を獲得した個体群の発生が報告されているため、同一ＲＡＣコードの薬剤は連用しない。

３．資料

図－１　トマトキバガ成虫



図－２　育苗中の苗の食害葉

図－３　幼虫による食害痕（左：初期　右：進行）

図－４　トマト苗での食害による生長点の枯死（育苗期）

表－１　トマトキバガの防除薬剤（茎葉散布）

適用作物名		RAC コード	農薬名	希釈倍数	本剤の使用回数	使用時期
トマト	ミニトマト					
○		6	アグリメック	500～1,000倍	3回以内	収穫前日まで
○	○	6	アファーム乳剤	2,000倍	5回以内	
○	○	5	ディアナSC	2,500～5,000倍	2回以内	
○	○	13	コテツフロアブル	2,000倍	3回以内	
○	○	30	グレーシア乳剤	2,000倍	2回以内	
○	○	28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	2回以内	
○	○	28	ベネビアOD	2,000倍	3回以内	
○	○	28	ヨーバルフロアブル	2,500倍	3回以内	
○		22A	トルネードエースDF	2,000倍	2回以内	
○	○	22B	アクセルフロアブル	1,000倍	3回以内	
○	○	UN	プレオフロアブル	1,000倍	2回以内	
○	○	11(A)	エスマルクDF	1,000倍	－	発生初期但し、収穫前日まで

※育苗期間中の農薬の使用回数も、栽培期間全体での使用回数にカウントされる。

表－２　トマトキバガの防除薬剤（株元散布、かん注）

適用作物名		RAC コード	農薬名	希釈倍数又は使用量（散布液量）	本剤の使用回数	使用時期	使用方法
トマト	ミニトマト						
○	○	28	プリロッソ粒剤オメガ	2g/株	1回	育苗期後半～定植時	株元散布
○	○	28	ベリマークSC	400株当り25mL （400株当り10～20L(1株当り25～50mL)）	1回	育苗期後半～定植当日	かん注

【　問合せ先　】
秋田県病害虫防除所　℡ 018-881-3660
秋田県農業試験場　℡ 018-881-3326
掲載HP https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/